

# 総予測 2010 Contents

## 世界と日本の経済

1	経済動向インタビュー	神原英資	34
2	2010年の課題 <b>特別寄稿</b> ジヨセフ・E・ステイグリッツ	シヨセフ・E・ステイグリッツ	38
3	景気 <b>注目の論点</b>	杏村秀樹	40
4	株式 <b>注目の論点</b>	木内登英	41
5	株式 <b>注目の論点</b>	藤戸則弘	42
6	株式 <b>注目の論点</b>	高橋和宏	43
7	為替 <b>注目の論点</b>	田中泰輔	44
8	為替 <b>注目の論点</b>	佐々木融	45
9	金利	佐野一彦	46
10	デフレ	河野龍太郎	47
11	財政赤字 <b>注目の論点</b>	井堀利宏	48
12	地価	山崎元	49
13	地価	石澤卓志	50
14	雇用・賃金	山田久	51
15	原油価格	井上淳	52
16	金価格	近藤雅世	53
17	日本経済の未来 <b>注目の論点</b>	野口悠紀雄	54
18	特別インタビュー	原田泰	54
19	特別インタビュー	野中郁次郎	58
20	金融危機の本質 <b>特別寄稿</b>	ジョージ・ソロス	60
21	米国経済(景気・消費)	土肥原晋	62
22	米国経済(株価)	成瀬順也	63
23	中国経済	西濱徹	64
24	EU経済	伊藤さゆり	65
25	新興国経済	門倉貴史	66
26	世界不況と国家政策 <b>特別寄稿</b>	林毅夫	68
27	特別インタビュー	ケネス・ロコフ	70

## 政治・政策・環境

28	政局 <b>インタビュー</b>	渡辺喜美	72
29	税制改革	浅羽隆史	75
30	特別インタビュー	稲盛和夫	76
31	死刑の是非 <b>注目の論点</b>	亀井静香	78
32	外国人の地方参政権 <b>注目の論点</b>	鳩山邦夫	79
33	外国人の地方参政権 <b>注目の論点</b>	川上義博	80
34	雇用政策 <b>注目の論点</b>	稲田朋美	81
35	雇用政策 <b>注目の論点</b>	八代尚宏	82
36	特別インタビュー	湯浅誠	83
37	特別インタビュー	ビル・エモット	84
38	高齢者医療制度	齋藤哲史	86
39	年金制度改革	西沢和彦	87
40	自治体財政	宮脇淳	88
41	農業政策	山下一仁	89
42	CO <sub>2</sub> 25%削減 <b>注目の論点</b>	飯田哲也	90
43	食料問題 <b>注目の論点</b>	杉山大志	91
44	食料問題 <b>注目の論点</b>	川島博之	92
45	水資源問題	島崎治道	93
46	水資源問題	吉村和就	94
47	エコカー	両角岳彦	95
48	温暖化対策の誤り <b>特別寄稿</b>	ビョルン・ロンボルグ	96
49	日本の外交 <b>インタビュー</b>	田中均	98
50	特別インタビュー	フィリップ・フォール	101
51	米国政治	茶谷展行	102
52	米国の外交政策	リチャード・N・ハース	104
53	中国政治	高原明生	106

## 国際社会

〇〇八年九月のリーマン・ブラザーズ経営破綻に端を発した世界金融危機から一年あまり。世界は、あの悪夢から、ようやく目覚めようとしている。

戦後最長の景気後退を経験した米国では、〇九年七〜九月期の実質GDPが5四半期ぶりにプラス成長となった。日本でも実質GDPが戦後最悪のマイナス一五・二% (年率換算) となった〇九年一〜三月期をボトムと見て、〇九年六月には与謝野馨財務・金融・経済財政担当相(当時)が「景気底入れ宣言」に踏み切った。

同時不況に陥った世界は、その回復もまた同時進行で起こる? いや、その見立ては楽観的に過ぎるだろう。実態は「最悪期は過ぎた」というだけにすぎず、大不況の出口がはつきり見えたとはいえない。日本においては、雇用不安や所得の減少は止まらないし、それらを受けての個人消費の低迷も続く。そして、ここに来て円高・デフレの進行により、二番底の懸念がじわじわと広がっている。

安定を取り戻しつつあった国際金融市場も、中東ドバイの政府系持ち株会社が債務返済繰り延べを要請したことで、金融危機の第二波に怯え始めた。ドバイに続く新

81	旧メディアの命運	真山仁／上杉隆	142
80	IFRS	瀧口範子	140
79	海外メディア	江口一樹	139
78	企業倒産	江口一樹	138
77	ネットビジネス		137
76	通信・放送		136
75	ホテル		135
74	ゲーム		134
73	外食		134
72	食品		133
71	化粧品		133
70	アパレル・繊維		132
69	コンビニ・専門店		131
68	百貨店・スーパー		130
67	医薬		125
66	商社		124
65	航空		123
64	ゼネコン・不動産		122
63	エネルギー		121
62	鉄		120
61	電機		119
60	自動車		118
59	保険		117
58	銀行・証券	孫正義	116
57	情報・通信		112
56	FTA	浦田秀次郎	109
55	ラテンアメリカ情勢	伊高浩昭	108
54	中東情勢	山内昌之	107

108	特別インタビュー	池口恵観	184
107	B級グルメ	柳生九兵衛	183
106	グルメ	ジャン・リュック・ナレ	182
105	若者の形態		180
104	若者消費	松田久一	179
103	格安	金子哲雄	178
102	婚活	白河桃子	177
101	歴史	掛谷大介	176
100	特別インタビュー	石黒浩	174
99	ランニング	下条由紀子	173
98	自転車	足田智	172
97	音楽・映画・テレビ	麻生香太郎	170
96	特別インタビュー	外山滋比古	168
95	W杯	松木安太郎	166
94	スポーツ	二宮清純	164
93	新型インフルエンザ	外岡立人	163
92	地域医療	國松孝次／海堂尊	160
91	老人ホーム	高橋紘士	159
90	介護	梶川義人	158
89	犯罪・治安	梅本正行	157
88	防災	山村武彦	156
87	教育と貧困	阿部彩	155
86	格差の拡大	稲葉剛	154
85	サラリーマン実感調査		152
84	特別インタビュー	駒崎弘樹	150
83	雇用問題	城繁幸	149
82	幸福論	香山リカ	146

働き方・暮らし・地域  
消費・流行・文化

たなツプリンデフォルト（政府債務不履行）の可能性も捨て切れず、内外の多くの識者が「まだ危機は去っていない」と強調する。どうやら二〇一〇年の経済情勢は、依然厳しいものと考えざるをえない。

折しも〇九年は、日米で歴史的な政権交代があった。〇九年一月、経済の危機的状況のさなかに「変革への挑戦」を旗頭に船出を果たした米国オバマ政権と同様、九月に発足した日本の鳩山政権に課された役割も、社会構造を根底から変えることにある。

「日本の大掃除」を掲げる鳩山政権だが、そのあとで、日本の国のかたちをどう新たにデザインしていくのか。二〇一〇年は、その真価が問われる年でもある。

本誌の年末恒例の「総予測」特集は、今回も政治・経済、産業・企業、暮らし・流行・文化……あらゆる分野について二〇一〇年の動向を予測・解説する。取り上げた総テーマ数は、除夜の鐘、すなわち煩惱の数と同じ二〇八だ（奇しくも一〇八個目の締めはお坊さんのインタビュー）。

世界と日本はどう変わるのか、そして本当に変わるのか――。分岐点となる年が始まった。